石岡市舟塚山（ふなつかやま）古墳からみた５世紀の大変革

茨城大学人文社会科学部　田中　裕

はじめに

古墳時代は日本列島の国家形成期に当たり、中期は、「古墳」の最盛期と説明される。暦年代ではおよそ５世紀（A.D.401～500年）に当たる。ただし最近の年代決定法では、４世紀後葉はすでに中期、との見方が強い。

『高句麗好太王碑』には、A.D.399～404年の間の、高句麗と倭との交戦記事がある。これは『神功紀』の内容と対応するが、年代は合わない（「神功皇后」は架空説が強い）。中期の幕開けを考える上での留意点となっている。

１　茨城県内の中期古墳と最新調査

（１）茨城県内の中期古墳

a　数少ない前方後円墳

茨城県石岡市舟塚山古墳（186m）・水戸市愛宕山古墳（136m）・石岡市府中愛宕山古墳（96m）・筑西市宮山観音古墳（91m）・東海村村松権現山古墳（86m）・ひたちなか市川子塚古墳（80m）・牛渡銚子塚古墳（63m）・つくば市土塔山古墳（61m）等

b　全国的にみても大型の円墳

常陸太田市高山塚古墳（90m）・大洗町磯浜車塚古墳（88m）・笠間市御前塚古墳・藤塚古墳（ともに60m）・茨城町諏訪山１号墳（55m）・美浦村弁天塚古墳（55m）・ひたちなか市三ツ塚12号墳（51m）・小美玉市塚山古墳（50m）・笠間市山王塚古墳（50m）など

80m以上の円墳は、全国で約10基しか知られていない「超大型」

（２）石岡市舟塚山古墳の調査（明治大学・茨城大学ほか）

a　墳丘長186mの前方後円墳（胴長形・三段築成：但、前方部段築はせり上がる）

b　盾形周溝　ほぼ全周していた可能性が出てきた

c　くびれ部造出し　両側２カ所？（主軸に向かって左側は確実）土器＋形象埴輪？

d　陪塚　主軸は外れる

e　埴輪　有黒斑・タテハケ　均整で統一的な円筒埴輪

f　葺石　なし

g　埋葬施設　レーダー探査：後円部墳頂に２基ないし１基（主軸右側に粘土槨か）

（３）水戸愛宕山古墳の測量調査（茨城大学）

a　墳丘長140mの前方後円墳（寸胴形・平坦な二段ないし三段）

b　盾形周溝　全周

c　くびれ部造出し　あり？（主軸に向かって右側は可能性あり）

d　陪塚　なし　近くに姫塚古墳（前方後円墳）あるも詳細不明

e　埴輪　有黒斑・タテハケと板ナデ、凸帯多様（幅広含む）　多様で不整形の円筒埴輪

f　葺石　なし

（４）ひたちなか市三ッ塚第13号墳の測量調査（茨城大学）

a　墳丘長約70mの帆立貝形古墳

b　埴輪　筒状壺形埴輪

c　葺石　あり

２　近畿の巨大古墳の特徴（古墳時代中期）

（１）百舌鳥古墳群（大阪府堺市）

a　仁徳陵古墳（486m）・履中陵古墳（365m）・土師ニサンザイ古墳（288m）・御廟山古墳（203m）

b　胴長形

（２）古市古墳群（大阪府羽曳野市・藤井寺市）

a　応神陵古墳（420m）・中ツ山古墳（286m）・仲哀陵古墳（238m）・允恭陵古墳（227m）

b　寸胴形

（３）佐紀盾列古墳群（奈良県奈良市・佐紀町）

a　神功陵古墳（276m）・ウワナベ古墳（265m）・市庭古墳（250m）・ヒシアゲ古墳（218m）

b　寸胴形（神功陵古墳）＋胴長形（ウワナベ古墳）

（４）馬見古墳群（奈良県北葛城郡広陵町・河合町・磯城郡川西町）

a　巣山古墳（204m）・新木山古墳（200m）・島の山古墳（195m）

b　胴長形

３　倭五王の時代

（１）巨大古墳

（2）史資料と仁徳陵古墳

a　仁徳陵古墳に関する資料

b　仁徳譚（「高台眺望譚」「イワノヒメの木津川曳舟」「百舌鳥耳原の寿陵」）

（3）『宋書』倭国伝

a　「讃・珍・濟・興・武」：倭讃、倭隋など中国風に姓・名を名乗る

b　「倭王武上奏文」と雄略譚

4　「畿内」の王権をめぐる議論

（1）「河内政権」論

a　応神を祖として河内を基盤とする政権論（万世一系を否定した王朝交代論の一つ）

b　直木孝次郎・上田正昭らによる

（2）古墳の「規制」論

a　前期まで前方後円墳であった古墳群が中期に帆立貝式古墳や円墳になる現象

b　5 世紀に「古墳」築造への強力な「規制」が２度かけられたとする小野山節の説

（3）「前方後円墳体制」論

a　王権中枢における有力者の交替が、地方の有力者交替と連動する

b　前方後円墳を頂点とする身分秩序と「トモ」的紐帯の完成とする都出比呂志の説

（4）大王の「后」墓論

a　佐紀盾列古墳群の位置づけ

b　白石太一郎による「畿内」の中の複数系譜と本貫地埋葬説

5　東日本との比較からみた古墳時代中期（５世紀）の変革

（1）東関東の中期古墳

a　舟塚山古墳体制

b　水戸愛宕山古墳体制？

c　上流から下流域（平野・海浜）への最大古墳の移動

（2）「畿内」の中期

a　古市・百舌鳥古墳群体制

b　両古墳群は独自系統の墳丘形態（奈良にも巨大古墳あり、巨大円墳：富雄丸山古墳も）

c　大和川上流から下流域への最大古墳の移動

d　馬飼集団のムラは大阪平野（その他、須恵･土師に関するムラも）

e　大阪市法円坂遺跡（巨大倉庫群）

（3）中期の陸上交通革命

a　東日本における土師器甕の「驚異的」斉一化（西日本も斉一化）

b　内陸部における陸上交通活発化の社会的インパクト（馬による陸上交通革命）

　中部高地（天竜川上流）における石器消滅・鉄器流入と前方後円墳

c　水上交通の相乗効果による発展（舟の表示の活発化：のちに競合関係へ）

おわりに

a　古墳時代中期（5 世紀）は王と民衆の蜜月時代

b　複数系統の競合関係明確化、所属集団の既成概念化

c　蜜月のおわりと武断的体制

石岡市舟塚山古墳 測量図

『霞ヶ浦の前方後円墳―古墳文化における中央と周縁―』
明治大学文学部考古学研究室　2018 年

水戸市愛宕山古墳 測量図

『茨城県中央部の古墳調査―測量報告（墳丘・石室・遺物）―』
茨城大学人文社会科学部考古学研究室　2018 年